

—ドアを開けてよ—

冬耳展

Fuyuji

2016.9.18sun~10.1sat

AIR南山城村 / 12:00~17:00 初日のみ12:30~  
毎週 水・木曜日は、休廊日とさせていただきます。

 AIR南山城村  
Artist In Residence 青い家



— object —

西川 茂 個展

Shigeru Nishikawa

2016.9.18sun~10.1sat

Gallery Den mym / 12:00~17:00 初日のみ12:30~  
毎週 水・木曜日は、休廊日とさせていただきます。

Gallery Den mym  
ギャラリーデン南山城村

京都府相楽郡南山城村高尾下廣見35 TEL 0743-94-0012 定休日:水・木曜日  
E-mail:gdmy@mym.com URL:galleryden-mym.com  
主催/Gallery Den mym 後援/南山城村

## 西川茂と冬耳について

まったく似ていないスタイルのふたりの画家の個展が同時開催される。Gallery Den mymの「本館」と「青い家」でそれぞれ個展を行う西川茂と冬耳のふたりは、1970年代後半に岐阜と京都で生まれ、2000年代はじめに大阪芸術大学付属大阪美術専門学校芸術研究科絵画コースを卒業した同窓の画家である。現在は、西川は奈良、冬耳は京都に住み、いずれも関西を主な発表の場として活動している。

個展名を「object」と題した西川茂の近年の関心は、描き方=タッチにある。具体的に述べるなら、《a portrait》のモチーフになっている植物の葉の部分——記号の「\」に似た形象のタッチがそれである。ともすれば、画面に描かれている自宅兼アトリエの庭に生えるキンメツゲというモチーフは、画家の関心をわたしたちに見誤らせるかもしれない。つまり、西川茂は自身にとって身近な対象を描く画家である。事実、西川が描いてきたモチーフは、ニューヨーク滞在後の地平線の特徴とする作品群をはじめとして、西川が身を置いてきた環境とおおいに関わっている。にもかかわらず、自身のタッチに適したモチーフを事後的に選ぶという制作過程を通し、西川はモチーフの形態に寄り添いながらも一定の距離をとる。そして本人が述べるように、その距離感は、モチーフの劇的な変化=「巨大な魚の群れが瞬時に変容するようなイメージ」が予見されている。本展に先立って今年開催された個展「under construction or destruction」(Gallery OUT of PLACE NARA)で発表されたシリーズ《Sealed House》も、より大きな「\」のタッチの集合によってシートによって覆われた家を描きつつ、しかし結果としてそれはタッチの集合とも家とも言えない別の物質にそれらを変形させるものだった。本展のハイライトは、《a portrait》の左右に一点ずつ作品がかわり、三枚組の作品として展示することだというのが、それも作品の一枚一枚をひとつのタッチに見立てているようにわたしには見える。絵を構成する最小単位としてのタッチ。ミニマムな行為の集積を通して変貌を繰り返す画面と作品。

日本近現代美術史、  
太田市美術館・図書館開館準備室学芸員 **小金沢 智**

個展名を「ドアを開けてよ」と題した冬耳の近年の関心は、日本人の自然に対する信仰心にあるという。長く、動植物や風景をヴィヴィッドかつフラットな色面で描いてきた冬耳は、近年、登山を通して自身と自然との関係——その境界と狭間に目を向けるようになった。ともすれば冬耳のこれまでの作品は、混色をしないがゆえのはっきりとした色彩とポップな形象が、わたしたちが住む世界とは切り離された、それ自体完結した世界の出現を鑑賞者にイメージさせたかもしれない。目にも鮮やかな謎めいたオブジェクトの集まりは、そのまま、ここではないどこかへとわたしたちを誘う。だが、近年の冬耳の作品は、完全にフラットではなく筆触を一部あらわにするようになった。本展に先立って今年開催された寺島みどりとの二人展「ヤミ」(HRD ファインアート)でも、出品作の一部がそのような描かれ方をされ、そのことが、テーマであった「ヤミ(闇)」と冬耳、そして鑑賞者との距離を縮めていたのではなかったか。つまり、冬耳の作り出す世界がわたしたちと分かたれたものではなく、接触可能な距離にあることを示したようにわたしには見える。このことを考えるとき、冬耳が絵画だけではなくインスタレーションにも取り組んでいることを思い出す。本展でも冬耳は、家屋である「青い家」の環境から、ブラックライトによるインスタレーションをはじめとする、一般的な絵画の展示以外の実験的な試みを計画している。それは双方向的なものであるだろう。絵画への現実の侵食。現実への絵画の侵食。

西川茂と冬耳のスタイルはまったく似ていない。しかしともに、絵画が現実にとどのようにアプローチすることができるのか、あるいはその逆に、現実が絵画にどのようにアプローチしてくるのかという課題があるようにわたしには思える。絵画にともなって現実が、現実にともなって絵画が、終わらなく変わり続ける現場にふたりの画家は立ち会っている。人と野の狭間にある山里=南山城村で、わたしたちが絵画によって対峙させられるのはそういった動的なシーンである。



西川 茂  
Shigeru Nishikawa

### PROFILE

1977 岐阜県生まれ三重県育ち  
1997 近畿大学理工学部土木工学科環境デザインコース 中退  
2002 大阪芸術大学付属大阪美術専門学校芸術研究科絵画コース 修了  
2007.8月~2008.8月 Triform Camphill Community 滞在  
2008 第23回ホルバインスカラシップ奨学生

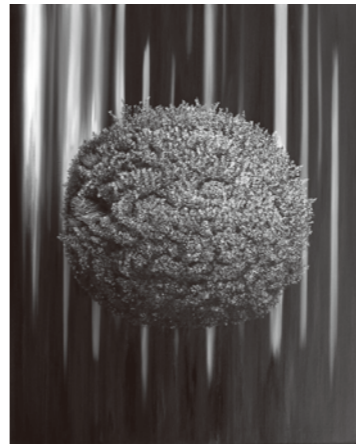
### ■主な展覧会

2016 個展「under construction or destruction」Gallery OUT of PLACE (奈良)  
ART OSAKA2016/ホテルグランヴィア大阪  
2015 「学園前アートウィーク2015」近鉄「学園前」駅 南エリア (奈良)

他、個展/グループ展多数

### ■ホームページ

<http://n-lab1977-4cc.petit.cc>



タイトル:a portrait  
技法:oil on canvas  
サイズ:1620×1300mm  
制作年:2014年



冬耳  
Fuyuji

### PROFILE

1976 京都府生まれ  
2001 大阪美術専門学校美術工芸学科絵画専攻卒業

### ■主な展覧会

2016 「公州国際芸術祭」(LIMLIP ART MUSEUM/韓国)  
「ヤミ」(HRD Fine Art/京都)  
2015 個展「from depth」(2kw gallery/大阪)  
「liquid section」(2kw gallery/大阪)  
「高尾小フェス」('13,'12) (旧高尾小学校/京都)  
2014 個展「ミドリ光、アイロの森」(gallery near/京都)

他、個展/グループ展多数開催



タイトル:ドア  
技法:acrylic on canvas  
サイズ:410×318mm  
制作年:2016年

# Opening Event 9.18 sun

## アーティスト・トーク

ゲスト:小金沢 智

美術評論家の小金沢智氏をお招きして作家を交えてのトークイベントを行います。小金沢智氏はかつて一年ほどギャラリストスタッフとして二人の作品に触れており、現在は太田市美術館・図書館開館準備室学芸員として美術館の開館に向かわれております。旧知の間柄である3人ならではの作品についての話ができればと思います。秋の気配感じる展覧会初日、ゆったりお昼ご飯を食べながらのこのイベントに是非ご参加ください。

日時:9月18日(日) 13:30~

場所:青い家



## harmony 卯

むらびいとおばちゃんたちがむらの食材をふんだんに使ったバイキングでおもてなし。青い家でにぎやかにおひるごはんを楽しみましょう!

\*材料がなくなり次第終了いたします。 \*写真はイメージ写真です。

## アクセス

◎原則として「車」でのご来場をお願いします。

駐車場スペースは充分ございます。会期中、駐車場は旧高尾小学校正門前(Gallery Den mymから徒歩3分)をご利用ください。詳細の地図はホームページをご確認ください。<http://galleryden-mym.com>

□お車でお越しの方

- 大阪・奈良方面より:369号線→4号線、途中左折して82号線
- 京都・三重方面より:163号線→82号線
- 名阪国道より:名阪国道五月橋IC→4号線→82号線

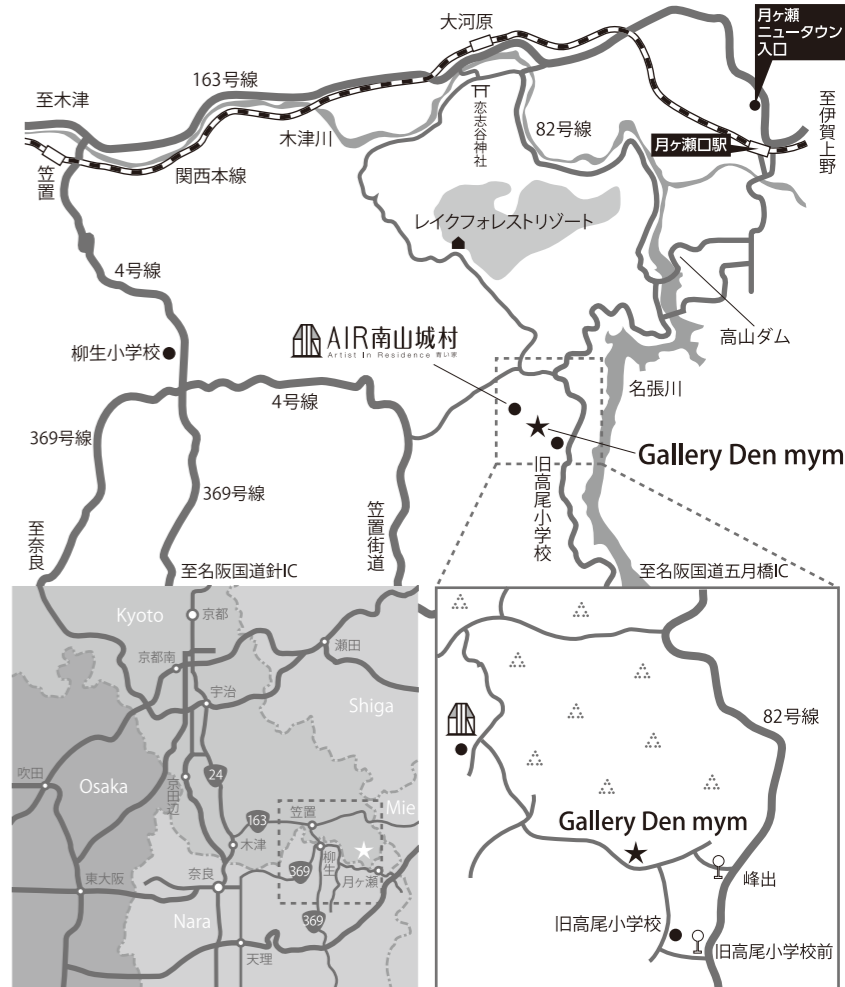
□公共機関でお越しの方

- 大阪方面より  
加茂駅(JR大和路快速)で乗り換え、月ヶ瀬口駅(関西本線)下車
- 京都方面より  
木津駅(JRみやこ路快速)で乗り換え、加茂駅から同上

初日9月18日(日)に限りシャトルバスを運行いたします。

月ヶ瀬口駅で下車してください。

シャトルバス運行表	●行き	●帰り
月ヶ瀬ニュータウン入口	11:15発	17:30着
月ヶ瀬口駅	11:20発	17:25着
旧高尾小学校	11:45着	17:00発



Gallery Den mym ギャラリーデン南山城村 定休日のご案内 毎週 水・木曜日は、休廊日とさせていただきます。